

アイリス（ショウブ、アヤメ）の物語

精神障がいのための全国同盟（ナミ）は、1987年のヴィンセントヴァンゴッホの絵画、

レ・アイリスの歴史的な売却後、その象徴としてアイリスを採用しています。

レ・アイリスは、1889年5月、ヴァンゴッホが、現在の診断では統合失調症と考えら

る精神障がいと最も絶望的な戦いをしていた頃に、身を寄せていた南フランスの聖レミ

一の庭で描かれました。その養護院から、彼は弟テオに多数の手紙を書いています。こ

れらの手紙のひとつに、ヴィンセントは彼の病気の恐ろしさについて書き込みました。

“私としては、もし選択肢があったのなら、私は確かに狂気を選択した訳ではないと

知っておいてください。心休まるのは、私は、狂気を他の疾患と同様に一つの疾患とし

て考え始めていて、自分でそうだと受け入れていることです。”

彼の人生のこの期間中、ヴァンゴッホは必死のペースで絵を何枚も書いています。養護

院からは退院したけれど、病気は再発し、翌年、彼は自殺しました。この時期からの彼

の絵画は、専門家によると彼の最も偉大な作品だと考えられています。

民話を通して、アイリスは、信仰、希望と勇気のシンボルと考えられ、3枚ある花卉の

それぞれにあたりと見なされ、苦しんでいた人、誰にも、励ましとして与えられました。